

# 新市庁舎に「ひろば」ができる！

## 新市庁舎の「ひろば」を考えるシンポジウム

### 第1回 北部方面 多様な活動を育む場 キーワード集

山下裕子さん、岩室晶子さんから伺ったお話のキーワードを抽出しました。



「広場」は、空っぽな「空間」。  
広場自体に、「集客力」は、ナシ。

山下裕子さん  
全国まちなか広場研究会  
NPO法人GPネットワーク



新市庁舎のひろばは！  
市民が自己実現・表現できる場に！

岩室晶子さん  
作・編曲家 NPO法人I Love つづき理事長  
NPO法人ミニシティ・プラス事務局長  
日本ナポリタン学会副会長 等

#### コンセプト

365枚（365日）市民のハナが咲く「ひろば」

新市庁舎のひろばはアイデアが生まれる場所！

遊び心のあるネーミングを！

「市庁舎の低層部」という呼び方を変えたほうが良いのでは！

#### 運営

「ひろば」の管理ではなく、運営という姿勢が大切。  
いかに「ひろば」をもっともっと楽しいものにしていくか、日常的な場所がどう面白くなるかという気持ちで、サポートすること。

Noは言わない運営！そのためには、発想力が大事  
例えば、大人のフットサルイベントはだめだけど、「5歳以下はどうか」と即座に柔軟で前向きな対応ができるか。

商業施設も「ひろば」と一体感のある運営を。  
事業者の募集の際の条件付け要検討！

月替わりで仕掛け人が変わる仕組みはどうか？  
例えば、各区の人が、1か月交代で自分たちの区を紹介するなど。夏休みは、子ども主体の運営も？

仲間で集まれば使える値段が利用料の設定のコツ  
ただし安売りしない。お金を出すと、集客を頑張る。

#### 使われ方～全体

夜も使える「ひろば」  
飲食のイベントが最も人が多く集まる  
売り上げはアルコールがポイント  
ワインイベントでは、周辺のお店への相乗効果が生まれた。

新市庁舎の「ひろば」は、情報発信基地！  
市長記者会見は、ひろばで公開。市民メディア、子ども記者も参加できる

#### 使われ方～水辺として

水辺からそのまま水浸しで歩ける設えがいい  
広場としては、なるべく自由に

新市庁舎には、海からの駅がある！

船から市庁舎に到着

大岡川からSUP（Stand Up Paddle）で通勤

#### 設備・備品等

屋根付き広場も、季節が良いときはOPENにして、風を感じられる空間にしたい。

備品にもきちんとお金をかけて景観をつくる。

「ひろば」の椅子の置き方を毎日変えて実験する。  
壁際に置くと、疲れた人しか座らない！

パオ・テントなどで柔軟な空間づくり

貸出できるキッチンがある  
市民が販売できる貸出スペース

#### プロセス

できてからが勝負ではなく、できるまでが勝負。  
小さな実験を積み重ねていきたい。

最初の2年間は、企業と市民、お金、体力、人をつなげるマッチング事業を実施しました！

#### 市役所だからこそ

市職員も「ジブンゴト」で「ひろば」に関わる  
6000人の職員が、スタッフとしてまずは「ひろば」を使い倒す。まずは、お弁当を広場で食べては？

市役所職員と市民が気軽に会議できる場  
市役所職員も有志で「ひろば」づくりのワークショップを行ってはどうか。

# 新市庁舎に「ひろば」ができる！ 新市庁舎の「ひろば」を考えるシンポジウム

## 第2回 中部方面 水辺やオープンスペースの魅力発信 キーワード集

岩本唯史さん、藤井優子さん、寺田浩之さんから伺ったお話のキーワードを抽出しました。

水辺に足りないのは「使う人」  
自分たちでやってしまおう！

岩本唯史さん

RaasDESIGN建築設計事務所代表  
株式会社水辺総研代表



流域という大きな視点を持ち  
ながら、水源から河口までの  
自然体験活動を行っています！

藤井優子さん・寺田浩之さん

NPO法人こども自然公園どろんこクラブ



市民と行政と一緒に使えるこのような水辺環境はなかなかない！

水辺は、まちを「自分事化」するための  
最高の教材である。

水辺を、一人のユーザーとして使い方を考え、実践  
していくことは、まち全体を「自分事化」して考え、  
アクションを起こしていくことにつながる。

提案を持ち寄って対話することが重要

「～したい」という要求だけではなく、行政と民間  
が、お互いのできることを持ち寄って、建設的な対  
話をするのが、魅力的な環境のマネジメントにも  
つながっていく。

「楽しむ」ことが、自発的な活動につながる。

大岡川の水面からみる  
桜やみなとみらいなどの景色は、  
誇るべきもの

このような環境で、水上茶会をやっ  
たり、SUPヨガをやったりと楽しんで  
いる。楽しめることが自発的な活動  
につながる。楽しそうな顔も風景の  
重要な要素の一つである。



SUP:Stand Up Paddle (右写真)

イベントの時だけではなく、  
日常が絵になる風景を作り出すことが大切

イベントは頑張れば成功するが、大切なのは、日  
常の使われ方や運営の工夫。例えば、富山のように、  
子どもが積み木をしているだけでも絵になる  
風景をつくりだせる。

「やっちゃえ、YOKOHAMA」

大切なのは、やってみせること

自分たちができることを実践して見せることが大切。  
特に、市民やNPO、企業等からやって見せて、行政  
や社会に提案していくことが大切。

パブリックマインドや、やる気をもった人や組織が  
かかわっていく仕組みが大切。

事業する意欲がある人たちを集めて、  
様々な提案ができるプラットフォームを  
今からつくりたい。

楽しみながら、提案をし、対話をし、実証実験  
を行い、さらには、魅力的な事業には投資も集  
められるようなプラットフォームを作ってい  
きたい。

楽しいだけではない価値をきちんと生み出すこと。

「教育」が水辺と「ひろば」の  
重要なコンテンツになるのではないか。

水辺などを楽しむだけではなく、それらをささえる  
きちんとした理屈がほしい。水辺の活動を、環境教  
育やその情報発信としてきちんと位置付けるべきで  
はないか。ここでの活動を、きちんと市民に還元し  
ていくべきである。

様々な活動に対して、  
効果の検証とフィードバックを

「ひろば」やまちなかで様々な活動の実験を行う際  
には、その効果の測定・検証を大切に。データを  
取って実証し、フィードバックしていく。

こんなことをしてみたい！

SUPで通勤できるまち

低層部にSUPの保管庫やシャワーがあれば、SUPで通  
勤できるまちになる。世界中をみても、なかなか  
いまちの価値になるのではないか。

その日に河口周辺でとれた魚の水族館

環境学習の一環で、大岡川や横浜港の環境の価値を  
発信していくために、その日にとれたばかりの魚を  
展示する水族館をやってみよう。

# 新市庁舎に「ひろば」ができる！ 新市庁舎の「ひろば」を考えるシンポジウム

## 第3回 南部方面 賑わいの仕組みづくり キーワード集

星卓志さん、岡部祥司さんから伺ったお話のキーワードを抽出しました。

行政内の有機的な連携が必要不可欠！

星卓志さん  
工学院大学建築学部  
まちづくり学科教授



違うレイヤーの人たちを  
つなげたいと思っています！



岡部祥司さん  
㈱アップテラス代表取締役  
NPO法人ハマのトウダイ共同代表

### 新しい人の流れを生み出し、都心部の構造強化を

#### 新しい人の流れをつくる「かなめ」

市庁舎の移転の際、現市庁舎も新市庁舎も新しい人の流れをつくる「かなめ」の一つであり、関内全体をどうしていくのか、ということを考えていかなければならない。

#### 大岡川の価値を活かして人の流れを変える

大岡川の価値を高めて、大岡川とアトリウム空間的連続性を高めることが大切。さらには、大岡川全体の整備により、人の流れが変わってくるのではないかな。

### 「ひろば」の空間づくり

#### 「ひろば」の設計と管理活用計画の一体的検討

設計が行われた後に管理活用計画をつくるのでは良いものはできない。「どう使うか」ということからスタートして、空間の在り方を考えるべき。

#### 空間利用の最大限の自由度確保

横浜の価値を高める活動はどのようなものがあり、ここでどのような活動が行われるのか、を考えたい。空間利用の自由度を最大限確保すべき。大岡川との空間の連続性や、商業施設との連携も考えていく必要がある。

### Open Yokohama を体現するには

#### 市の職員がオープンになれる場所に。

まずは、市の職員がOPENになれる場所をつくっていきこう！市の職員が自由に市民と語り合えたり、趣味を生かした発表ができたりするとよいのでは。

#### 本気で370万人の声をきく。

ワークショップをやっても、そこに来ることのできる人はごくわずか。スマホ等もうまく使いながら、本気で370万人の声を聞こうとすることで、「さすが横浜市」といわれるような話題性も出るのでは。

### 信頼関係を生み、方向性を共有していくようなプロセス

#### 札幌では、、、

札幌のまちづくり会社には、市からは3%しか出資していない。まちづくり会社を立ち上げるまでのプロセスの中で、まちづくりの方向性を共有し、信頼関係を生み出した。

#### まちづくりの方向性を共有するプロセス

公募による指定管理では、仕様書に書かれていることだけをやろうとする事業者が選ばれてしまう可能性もある。「ひろば」ができるまでのプロセスにおいて、その運営者との関係構築が大切！

### 感性価値を大切にす

#### 「カッコイイ」が価値を持つ。

行政事業では、定量的なものは評価しやすいが、「カッコイイ」などの定性的なもの・コトは評価しづらい。しかし、これからはこのような感性が価値を持つ時代になってくるはず。

#### 居心地が大切！

「アウトドアで働く聖地」になるなど、新しいスタイルの「居心地の良さ」を創り出していく。人工芝でもかなり気持ちが良い。

### ファシリテーターに活躍の場を

#### 管理者ではなく、運営者、さらにはファシリテーターに活躍の場を

例えば、マンションの「管理人」と「ファシリテーター」では全くイメージが変わる。「広場のファシリテーター」を選んで、活躍してもらおう！

### 「稼ぐ」ことの大切さ

#### お金や人の流れをつくりだせる人を大切に

「ひろば」の運営者は、大企業だけではなく、NPO、地元企業、個人などがコンソーシアムを組んで応募するようにしてはどうか。それにより、応募の段階で、「組み合わせの妙」が発揮される、持続的な体制をつくることのできるのではないかな。

新市庁舎に「ひろば」ができる！

# 新市庁舎の「ひろば」を考えるシンポジウム

## 第1回～第3回のまとめ

各回のキーワード集から共通する内容をまとめるなどして、重要な部分を抽出しました。

### 立地が最大の資源

- 普通の商業施設としては、歩行者のアクセスが悪く、平日日中しか人がいない、という状況。
- しかし、「水辺」と「ひろば」があり、みなとみらいと歴史的な市街地である関内に隣接し、駅直結で、市庁舎の足もとという立地は、世界で一つではないか。
- 商業施設と「ひろば」とが一体感のある運営を。

### 横浜市民370万人の「ジブンゴト」になる

- ICTも活用し、横浜市民370万人全員に本気で「ひろば」活用のアイデアを聞いてみては。
- 365枚（365日）の市民のハナが咲く「ひろば」。
- 18区の人が、月替わりでコンテンツの運営にかかわるなどすることで、「ひろば」が「ジブンゴト」になるのではないか。
- 「ひろば」は、横浜の資源（ひと・文化・もの等）の情報発信拠点である。

### NOのない「ひろば」

- NOのない「ひろば」実現のためには、管理ではなく運営、さらには、利用者のサポートやファシリテーションという視点が必要で、運営者に創造的な対応力が求められる。
- 飲食やアルコールがOKだったり、夜も使えたりするとよい。

### 「楽しむ」から価値を生み出す

- 「ひろば」の運営者や、そこで行われるコンテンツの提供者が自ら「楽しむ」ことができることが大切。
- ただし、そこから社会に還元していくための「価値」を生み出していくことが大切。水辺を生かした環境教育などは、価値の一つになりうる。

### 水辺に開く と 水辺を開く

- 「水辺に開く」も「水辺を開く」もどちらも必須であり、屋根付き広場と水辺のつなぐ空間がとても重要。
- 水辺からそのまま上がれるワイルドさを大切にする。
- 船で市庁舎に到着できたり、SUPで通勤できたりするとよい。

### 「ひろば」の日常風景を大切にする

- イベントの時だけではなく、日常も無理なく素敵な空間が生み出されるような空間のしつらえと運営方法を。

### プロセスを通じてビジョンを共有する

- 「ひろば」ができるまでに、その運営を担う人・組織等と、利活用の方向性を共有し、信頼関係を生み出していくようなプロセスとしていくべき。
- 「ひろば」の運営者選定では、大企業、NPO等、地域の企業、個人などが共同で応募すること要件にすることで、多様な層を巻き込むことができるようにしてはどうか。

### 横浜都心部の新たな人の流れをつくる

- 新市庁舎や現市庁舎などは、新しい人の流れをつくり出す「かなめ」である。横浜の都心部の構造をあらためてとらえ直し、強化していきたい。
- 大岡川全体の連続的な整備によっても人の流れが変わるのではないか。

### やっちゃんえ、YOKOHAMA

- できてからではなく、できるまでが勝負。トライアンドエラーとスモールスタートを大切に、小さな実験を積み重ねる。
- 「ひろば」の利活用方法や整備の検討にあたって「事業を行いたい人」をあつめた対話の場を設けては。
- 「ひろば」ができてからも、いろいろなことをやりたい人・企業などのマッチングの場となり、アイデアが実現される場にしたい。

### 感性を大切にする

- 「カッコイイ」といった感性を大切にする。
- 屋根付き広場も、季節が良いときはOPENにして、風を感じられる空間にできないか。
- 備品にもきちんとお金をかけて景観をつくる。
- 「アウトドアで働く聖地」になるなど、新しいスタイルの「居心地の良さ」を創り出していく。人工芝でもかなり気持ちが良い。

### 市職員が「ジブンゴト」として関わる

- 市職員と市民が自由に、立場を超えてOPENに対話できる空間と運営を「ひろば」に実現できないか。
- 市職員向けに、「ひろば」の利活用や運営を考える場をつくっていく。

### つくりこまない空間

- テントやパオのような、柔軟に空間をつくることのできるものをうまく使う。
- 将来の変化に対して柔軟に対応できる空間づくり。
- 活用計画と設計を一体的に検討する。

### 人やお金のながれをつくる

- 「ひろば」運営の持続性のためには、人やお金のながれをつくり、稼ぐことができる人を大切にする。

### 明確なミッションと効果検証を

- （安くて）誰でも使える「ひろば」ではなく、少し頑張っても使いたくなる「ひろば」を目指す。
- 「ひろば」ができる前から、効果検証の指標や方法を考え、実践する。